

- 問1 7世紀の日本における政治的な変遷と、その背景について述べた文章として最も適切なものはどれか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- 中大兄皇子らは、蘇我氏による権力の独占を打破するために大化の改新を開始し、白村江の戦いで敗北を契機に、外敵への防衛を意識した中央集権体制の整備を急いだ。
 - 壬申の乱に勝利した天武天皇は、混乱した社会を鎮めるために聖武天皇の政策を引き継ぎ、全国に国分寺や国分尼寺を建立する詔を出した。
 - 白村江の戦いによって朝鮮半島での影響力を拡大させた日本は、蘇我氏を中心とした強力な貴族連合政治を確立し、天皇を象徴とする国家体制を築いた。
 - 聖徳太子は、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことを受け、仏教の力で国を安定させるために、世界最古の木造建築である法隆寺の建立に着手した。
- 問2 飛鳥時代において、家柄にとらわれず個人の才能や功績がある者を役人として登用するために、冠の色によって位の高さを示した制度を何といいますか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
- 枕草子の執筆
 - 万葉集の編纂
 - 冠位十二階
 - 墾田永年私財法
- 問3 飛鳥時代から律令国家の形成期において、大王が自らを中心とする国家体制の確立を目指した主な目的として、最も適切な記述を選びなさい。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- 豪族に各地の領地を自由に支配させ、武力による統一を進めるため
 - 民衆に参政権を与えて自由な社会を作り、国民の権利を守るため
 - 地方豪族の権力を強化し、連合政権による分割統治を行うため
 - 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため
- 問4 天智天皇の死後の皇位継承争いとその後の政治の動きについて説明した文として、正しいものはどれですか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)
- この争いを機に武士の勢力が台頭し、政治の実権が貴族から武士へと移り変わるきっかけとなった。
 - 争いに勝利した大海人皇子が即位し、律令制度を基盤とした天皇中心の国家体制の整備が進んだ。
 - 争いの結果、律令制度は廃止され、地方の有力豪族による分割統治が再び行われるようになった。
 - この争いによって、中国の唐との外交関係が完全に断絶し、国風文化が発展する要因となった。
- 問5 7世紀後半、天智天皇の死後に発生した後継者争いである壬申の乱に勝利し、天皇を中心とする強力な国家の建設を推し進めた人物は誰ですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- 聖武天皇
 - 藤原道長
 - 桓武天皇
 - 天武天皇
- 問6 飛鳥時代の政治に関する記述のうち、冠位十二階の制度的特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
- 氏族ごとに定められた地位に基づき、特定の家柄が世襲で官職を独占した。
 - 全国の戸籍を作成し、それに基づいて公平に土地と位を割り当てた。
 - 個人の才能に応じて色別の冠が授けられ、地位が上がれば昇進も可能であった。
 - 仏教を深く信仰することを役人の第一の条件とし、僧侶を役人に登用した。
- 問7 歴史書である『日本書紀』には、ある法令の内容として「仏・法・僧の三宝を敬うこと」や「天皇の命令（詔）を承った際には必ず慎んで従うべきであること」といった、政治に携わる者の心得が記されています。聖徳太子が定めたこの法令の名称として正しいものはどれですか。 (2020年 奈良県公立入試 類似)
- 憲法十七条
 - 冠位十二階
 - 武家諸法度
 - 大宝律令
- 問8 当時の有力な豪族の家系図において、蘇我稲目の子であり、推古天皇や聖徳太子とも深い血縁関係を持つ人物が行った政治的行動として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることに専念した。
 - 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。
 - 検地や刀狩を行い、兵農分離を進めることで社会の安定を目指した。
 - 武士団を組織して平氏を打倒し、征夷大將軍となって幕府を開いた。
- 問9 「和を以（もつ）て貴（たうと）しとなす」や「篤（あつ）く三宝（仏・法・僧）を敬え」といった一節が含まれ、天皇の命令には必ず従うことなどを役人に説いた法令が制定された「目的」として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
- キリスト教の布教を禁止し、貿易を制限することで幕府の権威を高めるため
 - 律令に基づいて全国の土地と人民を直接支配する公地公民制を確立するため
 - 豪族たちに役人としての自覚を持たせ、天皇を中心とした政治の仕組みを整えるため
 - 武士に対して、領地をめぐる争いを解決するための公正な裁判の基準を示すため
- 問10 大宝律令のもとでの人々の負担について記した資料によると、口分田を与えられた農民には、収穫した稲の約3%を納める「租」のほかに、布や特産品を納める負担や、九州の北海岸を警備する「防人」などの兵役が課されていました。このような制度が整えられた主な目的として、最も適切なものはどれか。 (2020年 広島県公立入試 類似)
- 土地を所有する権利を証明する「地券」を発行し、税制を金納に統一して財政を安定させるため。
 - 有力な農民に土地の私有を認めることで、地方の開墾を促進し、農業生産力を高めるため。
 - 公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。
 - 地主から土地を買い上げて小作人に安く売り渡すことで、農村の貧富の差を解消するため。
- 問11 飛鳥時代において、従来の豪族を中心とした体制から脱却し、大王を中心とする国家構造への転換を目指した政治理念として、最も適切なものを選びなさい。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- 天皇中心の政治
 - 国民の権利に基づく政治
 - 武力統一による支配
 - 地方豪族による分割統治
- 問12 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）らが定めた制度のうち、家柄にとらわれず、個人の才能や功績がある人物を役人として登用することを目的とした制度を何といいますか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
- 班田収授法
 - 冠位十二階
 - 氏姓制度
 - 憲法十七条
- 問13 聖徳太子（厩戸皇子）が「十七条の憲法」を制定した背景には、当時の政治的な課題を解決する狙いがありました。この法令を通じて太子が実現しようとした「国家のあり方」として、最もふさわしい説明はどれですか。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
- 地方の農民に土地の私有権を認め、それぞれの生活を安定させることで成り立つ地方分権的な国家
 - 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家
 - 海外の十字軍派遣の動きに合わせ、キリスト教を国教として受け入れる宗教的な国家
 - 国民の選挙によって選ばれた代表者が、議会で法律を決定する立憲民主主義的な国家

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中大兄皇子らは、蘇我氏による権力の独占を打破するために大化の改新を開始し、白村江の戦いで敗北を契機に、外敵への防衛を意識した中央集権体制の整備を急いだ。	645年、中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足は、権勢を振るっていた蘇我氏を倒して天皇中心の政治改革（大化の改新）を始めました。その後、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した日本は、対外的な緊張感から国内の支配体制を固める必要に迫られ、戸籍の作成や防人の配置など、中央集権国家としての仕組みを強化していきました。聖武天皇による国分寺建立は8世紀（奈良時代）の出来事であり、混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 3 冠位十二階	聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政を務めていた時期に制定されました。それまでの「氏姓制度」のように家柄で地位が決まる仕組みを改め、能力のある人材を確保することで、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整える狙いがありました。
問3	答え 4 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため	唐や新羅などの緊迫した東アジアの国際情勢に直面した日本は、豪族同士の対立を防ぎ、天皇を中心とする強力な中央集権国家を築く必要がありました。そのため、豪族の私有地や私民を廃止し、国家が直接統治する体制へと改められました。
問4	答え 2 争いに勝利した大海人皇子が即位し、律令制度を基盤とした天皇中心の国家体制の整備が進んだ。	壬申の乱に勝利した天武天皇は、乱によって豪族たちの勢力が弱まったことを背景に、天皇への権力集中を図りました。これが律令国家（法に基づく中央集権国家）の形成を加速させ、次代の持統天皇による飛鳥浄御原令の施行や大宝律令の制定へとつながっていきました。
問5	答え 4 天武天皇	天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を倒した壬申の乱を経て即位しました。この勝利により強大な権力を手にしたことで、豪族を抑えて天皇に権力を集中させ、律令国家の基礎を固めることが可能となりました。
問6	答え 3 個人の才能に応じて色別の冠が授けられ、地位が上がれば昇進も可能であった。	冠位十二階では、徳・仁・礼・信・義・智の6つをそれぞれ大小に分け、12段階の位が設定されました。それぞれの位は冠の色によって区別され、能力や功績次第でより高い位へと昇進することができました。これは、家系によって地位が固定されていたそれまでの社会構造を変革しようとする試みでした。同時に定められた憲法十七条が役人の心得を説いたのに対し、こちらは役人の評価基準を定めたものと言えます。
問7	答え 1 憲法十七条	憲法十七条は、儒教や仏教の教えを基盤として作られた日本最古の成文法的な心得です。第一条の「和をもって貴しとなす」という言葉が有名ですが、記述にある通り「三宝（仏教の宝）」を敬うことや、天皇への忠誠を尽くすことが、役人が守るべき道徳として具体的に示されています。
問8	答え 2 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。	蘇我馬子は蘇我稲目の息子であり、自らの娘を天皇に嫁がせるなどして天皇家の外戚として強い権力を握りました。彼は仏教を積極的に受け入れることで、大陸の高度な技術を持つ渡来人と結びつき、古い慣習に縛られない新しい国家体制を目指しました。この過程で仏教反対派の物部氏と激しく対立しました。
問9	答え 3 豪族たちに役人としての自覚を持たせ、天皇を中心とした政治の仕組みを整えるため	当時は豪族がそれぞれの領地や私民を支配していましたが、聖徳太子は彼らを国家の「役人」として位置づけようとしていました。互いに争わずに協力すること（和）や、仏教を敬うこと、天皇の命令を遵守することを求めることで、豪族間の対立を抑え、天皇に権力を集中させる狙いがありました。なお、全国的な土地支配を定めた「公地公民」は、後の大化の改新以降の動きです。
問10	答え 3 公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。	律令国家は、土地と人民はすべて天皇（国家）のものであるという「公地公民」の思想を基本としていました。班田収授法によって人々に口分田を配分する見返りとして、租・調・庸といった税や兵役などの重い義務を課し、中央集権的な国家体制の財政と防衛を支えようとしていました。
問11	答え 1 天皇中心の政治	飛鳥時代には、聖徳太子（厩戸王）や中大兄皇子らによって、豪族中心の政治から大王（天皇）を中心とする政治機構への転換が目指されました。この理念に基づき、のちに公地公民の制や律令の制定などが進められることになります。「武力統一」や「国民の権利」といった考え方は当時の政治理念には当てはまりません。
問12	答え 2 冠位十二階	聖徳太子は、推古天皇のもとで天皇中心の国づくりを進めるため、603年にこの制度を整えました。それまでの「氏姓制度」が家系や血縁を重視していたのに対し、個人の能力を評価して官位（位）とそれに応じた色の冠を授けることで、有能な人材を確保しようとしていました。
問13	答え 2 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家	当時の日本は有力な豪族が独自の力を持ち、勢力争いを繰り返していました。聖徳太子はこうした状況を打破し、中国（隋など）のような組織立った国家を作るため、役人の地位を明確にする冠位十二階と、その倫理規定である十七条の憲法をセットで運用しました。これにより、豪族たちを「天皇に仕える役人」へと再編し、国家としての統一感を高めようとしたのです。